

マタイの福音書 5 章 1-12 節

八の至福—約束されている祝福 (7)

平和を作る人の祝福

- 5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。
5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。
5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

Introduction.はじめに

八の至福を通してイエス様の人格の美しさを学び続けることで、自分もイエス様のように変えられて行きます。神様のすべての祝福がすべての信者に与えられています。

エペソ 1:3 「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」

八の至福の意味を正しく理解する為、山上の垂訓の中でのイエス様の説明を見ると同時に、同じ事について書いてある他の聖書箇所も見ています。全部つながっているので、先週学んだように心がきよめられて神様の愛で満たされている人は、次に平和を作る人として神様に用いられます。

聖書で平和を作る人の意味はこの世の考え方とは全然違います。この世の意味する平和は暴力のない事だけです。人の心の中で恨み、憎しみ、復讐心の思いが残っても、暴力さえなければ、それは平和として認められます。聖書ではそれは平和として認められていません。聖書が教えている平和は赦しと和解の上に成立される平和です。それで今日の3つのポイントは赦しと和解と平和を作る人です。

1. 赦し

イエス様が山上の垂訓の中で赦しについて教えたのは主の祈りの中で、これが唯一繰り返して強調した事です。

マタイ 6:15、「しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」

山上の垂訓以外の所でも、例え話を使ってさらに明白にこれを命令として教えています。2週間前に哀れみ深い人の祝福について話した時に少し触れましたから、出来るだけ繰り返さないようにしたいですが、イエス様の全ての教えの中で相手を赦す事よりもっと大切な教えはないと言っても過言ではありません。基本中

の基本です。そして、イエス様自身が最大の手本になって十字架の上で見せて下さいました。そのとき、イエス様はこう言われました。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」相手が全く悔い改めていない時の、一方的な無条件の赦しです。

ローマ 5 : 8-10 「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」

相手が赦しを受け入れるかどうかは相手の問題ですが、赦す側はそれと関係なく先に赦すのがイエス様の見せて下さった実例です。ですが、クリスチャンの中には相手が悔い改めていないなら、赦す義務はないと言っている人もいます。

ペテロ第一 2:21-24 「あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。

2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

21節に「その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」とありますが、簡単な言葉で言いますとキリストと同じ赦し方をしなさい、裁きをすべて正しく裁かれる神様に任せなさいということです。正義の問題を神様に任せる事が出来るのはイエス様の信者だけです。神様を知らない人は当然出来ません。神様がいらっしゃるかどうか分かっていないからです。これが実行出来るのは神様の子供だけなので、誰が神様の子供で、だれがそうでないかを区別することができる一番の特徴です。それでイエス様はここで「彼らは神の子供と呼ばれるからです。」と教えています。イエス様の信者にとってこれがイエス様の証を立てる最高の機会です。

2. 和解

赦す人の責任と赦しと和解を求める人の責任は違います。

神の子供と呼ばれる人はまず自分を傷つけた人を無条件的に赦す責任があります。それがイエス様が残した模範です。相手が悔い改めて赦しを受け入れるかどうかは相手の責任です。赦しと和解を求める責任は傷つけた人にあります。一人だけで平和を作る事が出来ません。

ローマ12:18 「あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」

自分に関する限りなので少なくとも二人が必要です。

イエス様は2000年前に無条件的の愛で人類の全ての罪を処分して下さいましたが、それを受け入れて神様との和解を体験する人としらない人がいます。

イエス様はこれも山上の垂訓の中で説明して下さいました。赦す責任は傷ついた方にありますが、赦しを求めて和解をする責任は傷つけたほうです。イエス様の信者として人に傷をつけたら、自分から謝りに行って和解を求める責任があります。

マタイ5:21-24 「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。

兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

5:23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、

5:24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。」

そこで思い出したら、というのは、神様を礼拝する場所で神様に思い起こさせられたら、という意味です。

コリント第二5:17-21 「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあつて、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。」

18節・・・和解の務めを全ての信者に与えられています。

19節・・・和解の言葉を全ての信者に与えられています。もちろん、これはキリストの福音の言葉です。

20節・・・神の和解を受け入れなさい-全ての信者が伝道師や宣教師にはなれませんが、証人（あかしびと）としてキリストの福音の言葉を他の人に伝える事が出来ます。

3. 平和を作る人の祝福。

「彼らは神の子供と呼ばれる。」これはクリスチャンとしてイエス様の為に出来る最高の証です。言い換えれば神の子供としての命が自分の中にある事を見せる最高の機会です。神の子供とそうでない人の区別が一番はっきりと目に見える形です。

イエス様のように地上の最高の力ある祈りをする機会です。相手を赦す祈りは神様の力を一番働かせる祈りです。

ルカ23:34. 「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。」

この祈りは神の子供以外に誰も出来ないから、十字架のすぐそばに立っていた百人隊長の兵士でも、「この人は本当に神の子供だ。」と認めざるを得ませんでした。

祈りの内容を考える時、「彼らは何をしているのか自分で分からないのです。」というこの言葉について考えさせられます。もちろん、人を殺している事が分かっていたのですが、自分は悪魔に利用されて神のひとり子を殺している事に気が付いていなかったのです。

日本語でも罪を憎んで人を憎まずと言われていています。イエス様は他に誰も実行出来ない形でそれを実行しました。

私達も見習ったら、イエス様の命が心に宿っているから、赦せない事は一つもありません。最初のキリストの殉教者と呼ばれているステパノは石打処刑を受けた時にイエス様と全く同じようにいのりしました。

使徒7:59 「こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」

7:60 そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。」

7:58 「そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。」

神様はステパノの祈りに答えてサウロを赦して救っただけではなくて、キリストの最初の宣教師として用いて新約聖書の半分ほども書ける人に作り変えました。

北アイルランド紛争の中で私達も体験していました。元テロリスト達はイエス様を信じるようになって平和を作る活動に参加しています。2年前ぐらいにCNNのテレビで見てびっくりしましたが、私の最初の友達はその活動をしています。

私も実際に体験させていただきました。元敵同士はイエス様の愛と赦しを体験してそれから、赦し合って和解をして平和を作る為に用いられています。

次の御言葉によって神様は私を宣教師として日本に導いて下さいました。

イザヤ52:7 「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」

これはキリストの平和の福音と呼ばれているし、和解の言葉と和解の務めと呼ばれています。

まとめ。

神の子供と呼ばれている祝福の中に、キリストのために最強の証をしていると同時に、他の人の救いのために最強の祈りをする事ができることがあります。

他の人と神様の間に永遠の平和を作ることに参加させて頂けます。

その一方で 「赦せない被害者はいつまでも被害者のままです。」

神の子供は被害者としての生き方から解放されます。他の人の救いと祝福の為に神様に用いられる祝福を与えられます。